

世古口眸¹⁾、佐久間隆幸^{1) 2)}、中村昭宣¹⁾、清水敦哉^{2) 3)}
済生会松阪総合病院 薬剤部¹⁾、NST²⁾、内科³⁾

パニツムマブによる低 Mg 血症に関する調査

【目的】パニツムマブ(以下 P-mab)による低 Mg 血症と患者背景の把握

【方法】当院において 2010 年 6 月～同年 12 月までに P-mab を投与された患者 10 例について、年齢、性別、治療歴、低 Mg 血症の発現頻度と grade、血清 Mg 値が最低値になるまでの P-mab の投与回数、硫酸 Mg (注射) の投与の有無と投与による低 Mg 血症の改善率を調べた。

【結果】年齢 69.8 ± 7.54 歳、男性 6 例、女性 4 例であった。治療歴は 1 次治療が 1 例、3 次治療が 3 例、4 次以降が 6 例であった。低 Mg 血症は 10 例前例にみられた。grade は grade 1 が 5 例、grade2 が 3 例、grade3 が 1 例、grade4 が 1 例であった。血清 Mg 値が最低値になるまでの P-mab の投与回数は、2 回から 13 回までばらつきが見られたが、grade3 以上の低 Mg 血症 (2 例) はともに 13 回であった。セツキシマブの投与歴のある 2 例は、それぞれ 2 回と 3 回の投与で、最低値を示した。硫酸 Mg は全例に投与されていたが、硫酸 Mg 投与により血清 Mg 値が正常化した症例は 1 例のみであった。その他 9 例は現状維持または改善を認めた。

【考察】P-mab による低 Mg 血症は、発現頻度が高く治療困難である。また grade も必ずしも治療歴が長い患者が重篤であるとは言えず、P-mab を投与されている患者は、全員に注意が必要である。